

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
【部門区分】第1部門第2区分
【発行日】平成18年8月24日(2006.8.24)

【公表番号】特表2002-519162(P2002-519162A)
【公表日】平成14年7月2日(2002.7.2)
【出願番号】特願2000-557888(P2000-557888)
【国際特許分類】

A 6 1 N 5/06 (2006.01)

【F I】

A 6 1 N 5/06 A

【手続補正書】

【提出日】平成18年7月6日(2006.7.6)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】発明の名称

【補正方法】変更

【補正の内容】

【発明の名称】免疫システムを刺激し、細胞レベルでの治癒を発生するための装置

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

人又は動物の体表面に照射を行う装置であって、
赤外線照射ビームを単一源から発生する単一のレーザダイオード回路と、
約7.5 Hzのパルスレートで照射を発生するパルス制御手段と、
前記体表面に所定の強度でビームを向けるチューブ手段とを備え、
これにより、前記ビームを前記表面に適用する際に前記ビームは非コヒーレントであり

、
前記回路は、10 mW以上から200 mWのパワーレベルで赤外線照射を供給するものであることを特徴とする装置。

【請求項2】

請求項1に記載の装置において、前記チューブ手段は、研磨された表面を有する内壁を含み、前記ビームを照射される表面のエリアに戻すように反射させるように配置されていることを特徴とする装置。

【請求項3】

請求項1または2に記載の装置において、前記レーザダイオード回路は、約1917 nmの波長でパワーピークを有する赤外線照射を発生するように動作するものであることを特徴とする装置。

【請求項4】

請求項1ないし3のいずれかに記載の装置において、前記レーザダイオード回路は、約1800~2400 nmの範囲で照射ビームを発生するように動作するものであることを特徴とする装置。

【請求項5】

請求項1ないし4のいずれかに記載の装置において、前記単一源は、疾患の近くの場合から離れた体表面の場所で免疫システムに刺激を与えるように前記照射を向けるように動

作するものであることを特徴とする装置。

【請求項 6】

請求項 1 ないし 5 のいずれかに記載の装置において、免疫システムに刺激を与えることにより人または動物の治療に使用される装置。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0003

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0003】

本発明によれば、

人又は動物の体表面に照射を行う装置であって、赤外線照射ビームを単一源から発生する単一のレーザダイオード回路と、約 7.5 Hz のパルスレートで照射を発生するパルス制御手段と、前記体表面に所定の強度でビームを向けるチューブ手段とを備え、これにより、前記ビームを前記表面に適用する際に前記ビームは非コヒーレントであり、前記回路は、10 mW 以上から 200 mW のパワーレベルで赤外線照射を供給するものであることを特徴とする。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0004

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0005

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】削除

【補正の内容】